

「第3次北しりべし定住自立圏共生ビジョン(原案)」に対して提出された意見等の概要及び市の考え方等

- | | |
|----------------------|-----|
| 1 意見等の提出者数 | 3人 |
| 2 意見等の件数 | 18件 |
| 3 上記2のうち計画等の案を修正した件数 | 2件 |
| 4 意見等の概要及び市の考え方 | |

| No. | 意見等の概要 | 市の考え方等 |
|-----|---|---|
| 1 | 圏域の将来像について確認します。パブリックコメント手続き補足資料には「(省略)小樽市を玄関口として、人、もの、情報が交流する圏域」とあるが、小樽市を玄関口とする記述は不要と考える。さらに人、もの、情報はすでに交流しており、将来像の記述になっていない。 | 新千歳空港や札幌市からの人の流れや、圏域の観光入込客数のうち大きな割合を占める小樽市の観光入込客数を考慮して、「小樽市を玄関口として」という表記をしておりますが、後志自動車道小樽余市間が開通したことや、ニセコや倶知安などの外国人観光客の圏域への誘導を目指すことを考慮し、「小樽市を玄関口として」という表記は削ることとします。 圏域市町村の連携を深め、「人、もの、情報が交流する圏域」とすることにより、自立した活力のある圏域の形成が図られると考えておりますので、「人、もの、情報が交流する圏域」という表記は原案のままとします。 |
| 2 | 将来像として小樽市を玄関と考えた構想が練られていますが、自動車道が倶知安まで完成し、新幹線が完成した暁には、ただの通過点になっているように感じます。現在でも、すでに市内の幹線道路通過を避け、直接後志道で小樽を素通りし、物や人が流れていると言う情報を耳にしますし、地図を見ても倶知安を起点にすると、洞爺、登別、赤井川、余市、積丹、ニセコ等の主要観光地へアクセスしやすいように見えるのです。小樽市が圏域の入口・拠点となり得る、あるいは適切である根拠を示して頂きたいと思いました。 | 新千歳空港や札幌市からの人の流れや、圏域の観光入込客数のうち大きな割合を占める小樽市の観光入込客数を考慮して、「小樽市を玄関口として」という表記をしておりますが、後志自動車道小樽余市間が開通したことや、ニセコや倶知安などの外国人観光客の圏域への誘導を目指すことを考慮し、「小樽市を玄関口として」という表記は削ることとします。 |
| 3 | 圏域の将来像について確認します。1頁の記述から将来像は「将来にわたり自立した活力ある圏域」であり、そのためには人口の社会減少を抑制することが最も重要な取組の一つと理解します。この認識が正しければ、「自立する」「活力ある」を具体的に指標化し、各種施策を点検すべきである。 | 御意見のとおり人口の社会減少を抑制することが重要な課題の一つであると認識しており、原案38ページ「圏域内外の住民との交流及び移住」の項目の基本目標として人口の社会増減数を指標の一つとしているところですが、今後の施策点検の指標設定に当たっては、適切な指標となるよう留意してまいります。 |
| 4 | 第2次ビジョンにおいても人口の社会減少を抑制する取組が求められると有り、若者が地域に定着する仕組みを課題として取り上げているが、65頁(人口の推移)に見られるように、人口減少に歯止めは掛かっていない。そのような状況の中でも今回の第3次ビジョンにおいても目新しい施策はない。各自治体が個別に策定・実行する人口減少対策に関する施策とは別に、圏域全体から札幌圏に人口流出させない視点で施策を見直すべきではないか。 | 御意見のとおり圏域全体で人口流出を抑制することが必要であると考えており、原案に掲げている取組を実行して魅力あふれる圏域の形成を図ることにより人口流出の抑制につなげていきたいと考えておりますが、御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。 |
| 5 | 医療に関して、始めからネットワーク化ありきで取組みや今後の方針等が検討されていますが、なぜ直接的に医師不足の解消を計画しないのでしょうか。交流人口や移住者を探す余裕があるのなら、医師探しもできるのではと思います。 | 地域医療の維持・確保の課題として、医師不足や地域ごとの医師の偏在化という問題があることから、圏域内の住民が安心して暮らすことができるように医療を提供していくためには、個々の取組はもとより、圏域全体を勘案した取組が重要と考えております。具体的には、小児救急医療支援事業、周産期医療支援事業などの実施や、圏域医療のネットワーク化を推進して各医療機関の役割分担と連携を図ることが、圏域医療の維持・確保につながり、各医療機関による医師の確保にも寄与できるものと考えております。 |

| No. | 意見等の概要 | 市の考え方等 |
|-----|--|--|
| 6 | <p>産業振興では、始めから観光客のお土産等、区域外の人や外国人への販売を意識した地域ブランドの開発を考えているように見えましたが、順序が間違っていると思いました。地元住民の間で日常的に愛され利用されているものが、少しずつ来訪者に知れて、口コミで広がってこそ、価値ある地元ブランドになるものではないのでしょうか。また、目標値が現状値維持と消極的ですが、物価上昇等も考えているのでしょうか。実質上減額しても良いと考えているのでしょうか。他の取組みの目標額もそうですが、物価の高騰も含めた額を提示して頂きたいと思えます。あと、販路拡大については、是非ふるさと納税返礼品の開拓も視野に入れて行って欲しいです。正直、小樽市の返礼品はつまらなく、地元住民として恥ずかしいと思う事があります。</p> | <p>地域ブランドの開発については、地元で愛されている特産品や農水産物の情報を収集し、広く情報発信することによりブランド化を図ろうとするものであり、御意見のとおり口コミが有効であると考えますので、口コミを広められるような取組を図ってまいります。</p> <p>目標値については、農家数や漁獲高の推移を勘案して現状維持の目標としており、また、物価上昇については不確定要素が大きいため、加味しないこととしておるところです。</p> <p>ふるさと納税返礼品については、地元の特産品等の開拓に努め、魅力的なものとなるよう努めているところですが、御意見を参考に、より魅力的なものとなるよう改善を図ってまいります。</p> |
| 7 | <p>北しりべしの基幹産業は農水産業である。地域ブランドの開発も必要であるが、農業、水産業従事者が本来業務で生活できるようにすることが何より大事であり、そのことの具体的な取組みが必要である。ウニやホタテなどの畜養を推進することや、果物の品種改良など農水産業の振興を入れるべきではないのか。</p> | <p>御意見のとおり農水産業の振興が圏域にとって重要であると考えておりますので、「安全で安心な農水産物生産支援及び活用促進事業」を実施することとしており、その中には水産物生産支援事業や農業振興事業が含まれております。</p> |
| 8 | <p>雇用支援に関しては、始めから新卒者のみを対象にしていますが、人数的、社会ニーズ的にも、むしろ40代近辺の就職氷河期時代の無職人たちに、対し重点的に行った方が良いように思います。新卒者にこだわる理由は何なのでしょう。また、新卒者等を対象にするとともに、区域内の若者に絞るのでは、人数的に十分でないと思います。隣の圏域の方も呼び込むような支援が必要ではないでしょうか。</p> | <p>圏域では、東京圏から移住して就業する方に対する支援制度などを実施している自治体がございますが、御意見は、今後の施策検討の参考とさせていただきます。</p> |
| 9 | <p>広域観光では区域の関係者側から、一方的に観光ルート等を設定するような案に見えましたが、これも順序が逆のように思います。来訪者が、それぞれのニーズを満たすために訪れたい所を口コミ等の情報を頼りに探し、結果できた移動ルートが観光ルートではないのでしょうか。あと、外国人観光客の誘致に関しては、多言語化だけでなく、それぞれの地域の文化・宗教等に対する配慮も含めた方が良くと思います。また、今回コロナウィルスの流行問題がありましたが、このような事態になった時のための対応も検討して欲しいです。できれば、来訪拒否、入店拒否や退去処置ではなく、感染者、感染が疑われる地域から来た人たちも、温かく受け入れられるような配慮を是非考えて頂きたいです。</p> | <p>御意見のとおり広域観光の推進にとって口コミ等は重要な要素の一つであると考えておりますので、その収集・活用を図りながら取組を進めてまいります。</p> <p>外国人観光客の誘致につきましても、御意見のとおりそれぞれの地域の文化、宗教等に対する配慮が重要であると考えておりますので、取組を進める上で配慮してまいります。</p> <p>新型コロナウイルス感染症のような問題が発生した際の観光客の対応につきましては、事業者、市民、観光客への適切な情報の発信に努めてまいりたいと考えております。</p> |
| 10 | <p>教育に関しては、情報不足もさることながら、交通費や移動時間等の制約が、近隣5町村からの参加者を鈍らせているように思います。きちんと近隣町村の方も日常生活に影響が無い範囲で参加できるような配慮などがなされているのでしょうか。</p> | <p>中心市である小樽市が開催する市民講座などへの近隣5町村からの参加については、御意見のとおり課題があると認識しておりますので、情報提供の仕方や開催時間の設定についての工夫を図るよう努めてまいりたいと考えております。</p> |
| 11 | <p>地域公共交通では、バスのみを考え、JR 在来線を始めから無視しているのはなぜでしょうか。また、輸送人員減少を人口減少のためとしています。単純に交通費の異常な値上がりで、極力不要な外出を避けているためだけのよう思うのですが、きちんと輸送人員減少割合と人口減少割合との間で正の相関があることを確認しているのでしょうか。あと、最近外国人のローカル公共交通機関への乗車がよく見受けられます、海外の人でも分かりやすく利用し易い運行設計も是非、取り組んで頂きたいです。</p> | <p>JR在来線については、圏域の自治体によって事情が大きく異なるため、定住自立圏による取組としては、路線バスやコミュニティバスなどを対象としております。</p> <p>輸送人員の減少については、直近の国勢調査の人口減少割合と比較しても近似的割合で減少しており、人口減少が大きな要因であると認識しておりますが、今後の検討の中で他の要因の可能性についても検討してまいりたいと考えております。</p> <p>外国人の地域公共交通の利用については、御意見のとおり利用しやすさの向上が課題であると認識しておりますので、その向上に向けた取組を行ってまいりたいと考えております。</p> |
| 12 | <p>地域公共交通にJR在来線が入っていないのはどうしてか。とりわけ山線(函館本線)の存続・活用についてきちんと明記する必要がある。</p> | <p>JR在来線については、圏域の自治体によって事情が大きく異なるため、定住自立圏による取組としては、路線バスやコミュニティバスなどを対象としております。</p> |

| No. | 意見等の概要 | 市の考え方等 |
|-----|--|--|
| 13 | 道路等の交通インフラの整備では、基幹交通について重点的に取り組まれています。末端の住民が日常生活で使う生活道路の整備も行った方がよいと思います。老朽化も進んでいますし、事実上冬季の交通が不可能な場所もあり、安心して暮らせる圏域とは言い難いように思います。また、最近穴場的注目施設等が、そのようなところに出現し、観光客と思われる方を意外な場所で見かけたり、道を尋ねられたりすることもあります。 | 生活道路の整備については、計画的に道路改良工事等を進めているところですが、今後も計画的な施工に努めてまいります。 |
| 14 | 圏域内外の住民との交流及び移住では、新規就農を上げていますが、就農後もきちんと定住できるのでしょうか。取組みは受入農家や研修への助成を重視していますが、そもそも新規就農者のための農地は十分あるのでしょうか。研修も他人任せでなく、行政が直接研修を作りだし、誰でも受けられる体制にした方が効率的のように思えます。そうでないと、開催情報が一部の人間にしか知らされなかったり、地域によっては研修そのものが無かったり等の不平等が生じると思います。あと、首都圏等へのピーアール活動では、災害や原発等のリスク情報も隠さず公表する事を強く勧めます。そうすることで、あとで問題になることを避けるだけでなく、隠し事をしない圏域と言う信頼性の点で、絶対に高評価を得られると私は思います。 | 新規就農者の多くが定住を続けているものと考えておりますが、今後の検討の中で定住を続けられるような支援の必要性についても検討してまいりたいと考えております。 新規就農者のための農地につきましては、条件が合致するかにもよりますが、供給はあるものと認識しております。 新規就農者への研修としては、受入れ農家による営農実習支援が有効であると考えておりますので、その支援を実施しているところであり、施策の周知に努めてまいります。 移住促進の取組においては、御意見のとおり移住後の問題を避けるために地域のマイナス情報もお伝えするように留意しているところであり、今後も留意してまいります。 |
| 15 | 人材育成に関しては、区域内の高等教育機関からの実施内容によって行う事を期待していますが、それでは分野が高等教育機関が取り扱っている分野に偏らないでしょうか。どのような分野の講座等を事業者や起業者が望んでいるのかニーズ把握をしないで良いのでしょうか。 | 人材育成の取組においては、高等教育機関による取組とは別に、起業希望者向けの講座や中小企業者等向けの施策説明会を実施しているところですが、対象者のニーズに合う取組となるよう努めてまいります。 |
| 16 | 圏域マネジメント能力強化について、協定項目・取組事項に「職員間の情報交換や意見交換の場を積極的に設け活用する」とあり、会議数を成果指標としている。しかし、圏域マネジメントは住民からの多様な意見を確認し、職員とともに知恵を出しあうべきである。今後圏域内において居住し続けるであろう住民による委員会・勉強会を設置し、多様な意見、アイデア等をまず収集すべきでは。 | 御意見のとおり圏域住民との協働によるまちづくりが必要であると認識しておりますので、御意見にありますような住民の意見等の収集など、その方策について検討してまいりたいと考えております。 |
| 17 | 重点目標を広域観光にする理由が良く理解できません。医師不足の深刻化や交通難民の増加が現に起こっているのですから、現に暮らす圏域の住民の生活基盤の維持を最優先にするのが、自然ではないでしょうか。 | 後志自動車道小樽余市間の開通や新千歳空港の国際線就航などにより交流人口拡大の機会が増していること、人口減少が進む中、交流人口拡大の必要性が増していること、圏域の各自治体が観光を推進しているところ広域観光の推進により更なる相乗効果が見込めることなどから、広域観光を重点取組事業としております。 |
| 18 | 小樽市の「樽」は正字を使用すべき。 | 出力するコンピュータの仕様によるものですので、出力するコンピュータを変更することにより修正いたします。 |

* 同じ内容の意見が複数ある場合は、「意見等の概要」の最後に件数を記載してください。

* 計画等の案を修正した場合は、「市の考え方等」の欄に修正箇所を併せて記載してください。